

しまだはくきんじんじゃほんでん
島田白山神社本殿

種 別	小松市指定文化財 建造物
指定年月日	平成5年11月3日
所 在 地	島田町（白山神社）

島田白山神社は、鎌倉時代の初めに当地を領有していた阿佐美右衛門尉実高が、白山本社から勧請したのがはじまりと伝えられ、島田町の氏神として祀られてきた。明治21年（1888）に社殿を造営した際、幣殿、拝殿は新築したが、本殿はもともと小松城内にあったものを、梯川に船を並べてそのまま運んできたと伝えられている。平成5年（1993）の改修で、幣殿と拝殿は新築されたが、本殿はその由緒から残されることとなった。

本殿は一間社流造^{いっけんしゃながれづくり}(1)で、屋根は柿葺き^{こけら}である。本殿の棟木には慶安4年（1651）10月8日の建築と記されており、利常小松在城時の寺社造営が盛んに行われた時期である。棟梁は加賀藩御大工黒田^{くろだたえもん}太右衛門である。太右衛門は幕府の大棟梁を務めた平内^{へいのうち}家三代正信の弟子であり、四天王寺流^{しつてんおうじりゅう}(1)の大工である。この本殿は四天王寺流の規範に沿って造られたことが分かり、太右衛門が手がけた他の建造物と共通した点が多々見られ、各所の彫刻や金具などに、技術の高さが窺える。

(1)「一間社流造」：屋根の片側が伸びて前面の庇となる建築技法で造られた社殿で、前面の柱が2本であるもの。

(2)「四天王寺流」：近世、主に和様の建築技術を継承してきたとされる建築流派。

